

政務活動報告書

令和 8 年 1 月 1 6 日

〔会派名： 無会派〕

代表者氏名	三原 淳子	記録者氏名	三原 淳子
活動者氏名	三原 淳子		
活動日	令和 8 年 1 月 1 6 日（金）		
活動先	生駒市		
活動目的	駅前活性化について視察		
概要は別紙			



生駒市と民間事業者との事業連携協定及び包括連携協定について

生駒市は、近鉄電車で大阪まで20分、奈良まで15分、京都まで40分という立地で面積は53.15km²、人口は11万7,332人、総合病院が2つ、大学が3つある。生駒駅前近鉄百貨店を中心に店舗があり駅前図書館やホールまであった。市役所までは徒歩5分と駅前に市民の集まる場所が集約されている。名張市とまちのづくりが違っているが、都会のペットタウンで発展したことは同じである。

生駒市は市長が「脱ペットタウン、寝に帰るだけのまちではなく、住んでいる人がいきいきと活躍するまち。」を掲げ政策を進めている。その中で、生駒市と民間事業者の事業連携協定、包括協定は、生駒市と民間事業者がお互いに持っている資源を活用し課題解決をするためという位置づけになっており、「沿線価値向上と持続可能なまちづくりの実現に向けて連携します」このスローガンからも見て取れる。

具体的に連携・協力する内容は、1、拠点形成に関すること（生駒市の4つの駅周辺のまちづくり） 2、学研高山地区のまちづくり事業化推進 3、地域活性化の実現（ニュータウンの再生・再編）近鉄百貨店のタウンセンター化 4、生駒山の観光（生駒遊園地等）、人口減少や高齢化に伴う地域課題解決など様々な分野で連携を進め、地域の活性化と市民生活の利便性の向上に向け取り組むとしている。近鉄ホールディングス株式会社との包括連携協定を締結に至るまでは、常に事業者とコンタクトを取り続けていたそうだ。

この視察で学んだことは、第1に名張市がこれからどのような発展を目指すのか、人口減少の流れのままで縮小していくまちづくりでは民間事業者は撤退するばかりだろう。桔梗が丘駅前の活性化は桔梗が丘地区だけの問題ではなく、名張市の未来のまちの在り方に係わることだと実感した。